

平成30年度 石岡市高校生議会 会議録



平成30年7月23日（月）

八郷総合支所 議場

石岡市

平成30年度石岡市高校生議会

平成30年7月23日（月曜日）午後2時開会

議事日程

開会宣言

日程第1 会期の決定

日程第2 一般質問

- 1 伊藤美樹 (石岡商業)
- 2 関町将太 (石岡第二)
- 3 鈴木智華 (石岡第一)
- 4 金 脈河 (青丘学院つくば)
- 5 大塚雅弥 (石岡商業)
- 6 寄名綾乃 (石岡第二)
- 7 栗山葵衣 (石岡第一)
- 8 渡邊航平 (青丘学院つくば)
- 9 岩木綾音 (石岡商業)
- 10 笹沼一真 (石岡第二)
- 11 藤岡美都 (石岡第一)
- 12 川又朱莉 (青丘学院つくば)
- 13 飯塚裕貴 (石岡商業)
- 14 千葉あおい (石岡第一)
- 15 伊藤萌花 (青丘学院つくば)

閉会宣言

出席高校生議員 15名

1番	伊藤美樹	(石岡商業)	8番	渡邊航平	(青丘学院つくば)
2番	関町将太	(石岡第二)	9番	岩木綾音	(石岡商業)
3番	鈴木智華	(石岡第一)	10番	笹沼一真	(石岡第二)
4番	金 賑河	(青丘学院つくば)	11番	藤岡美都	(石岡第一)
5番	大塚雅弥	(石岡商業)	12番	川又朱莉	(青丘学院つくば)
6番	寄名綾乃	(石岡第二)	13番	飯塚裕貴	(石岡商業)
7番	栗山葵衣	(石岡第一)	15番	千葉あおい	(石岡第一)
			16番	伊藤萌花	(青丘学院つくば)

欠席高校生議員

14番 清水司 (石岡第二)

出席を要求した者の職氏名

市長	今泉文彦	都市建設部長	菱沼茂雄
副市長	根本博文	八郷総合支所長	真家 忠
市長公室長	加藤乃利明	会計管理者	横田克明
総務部長	久保田克己	消防長	小松崎政次
財務部長	古内勝人	教育長	櫻井 信
財務部理事 兼庁舎建設担当	越渡康弘	教育部長	武熊俊夫
生活環境部長	齋藤秀幸	監査委員	飯田修久
保健福祉部長	小倉俊彦	事務局長	大関浩二
経済部長	諸岡広明	農業委員会 事務局長	

議長 岡野孝男

副議長 池田正文

議会事務局職員出席者

局長	鈴木幸治	課長補佐	木崎憲一
庶務議事課長	中山善正		

平成30年7月23日（月曜日）

午後2時00分開会

○鈴木議会事務局長） お待たせいたしました。ただいまから、石岡市高校生議会開会前のセレモニーを始めさせていただきます。私は、石岡市議会事務局長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。
本日の石岡市高校生議会の開会にあたり、はじめに私から申し上げます。

高校生議会は、議場での質問を通して、二元代表制における議会、議員の役割と責務の体験及び市政に対する理解と関心を高めるために実施するものです。議員は、市内の高等学校から推薦された生徒の方をお願いしております。なお、議席番号14番、石岡第二高等学校の清水司さんは本日欠席となりますので、あらかじめお知らせいたします。議会の運営は、原則として市議会本会議に準じて行い、議事はあらかじめ高校生議員の中から選ばれた議長が進行してまいります。

それでは開会にあたりまして、石岡市長、石岡市議会議長からご挨拶をさせていただきます。はじめに石岡市長、今泉市長宜しく願いいたします。

〔今泉市長 登壇〕

○今泉市長） 皆さんこんにちは。市長の今泉でございます。

初めに、このたびの、平成30年7月豪雨により亡くなられました方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

また、多くの皆さま方には、心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧復興を心からご祈念申し上げます。

さて本日は、高校生議会ということで、こうして初々しい高校生議員の皆様をお迎えし開催できましたこと、心から嬉しく思います。

また、本日の開催に際しまして、ご協力いただきました学校関係者の皆さま、保護者の皆さまに厚く御礼申し上げたいと思います。

さて、高校生議員の皆さまにおかれましては、勉強にスポーツに、それから課外活動にと、日々、充実した高校生活を過ごされていることと思います。

本日は、高校生の皆さんが、普段どのように感じられているか、石岡市が取り組んでいる様々な施策、気になる点や、分からない点など、皆さんの視点から質問をしていただければと思っております。私どもも、皆さんがどういった質問をされるのか、非常に楽しみにしております。

ここで、皆さんが今座っている椅子ですけれども、それについて簡単にご説明したいと思いますけれども。

戦前、旧日本国憲法においては、地方自治参政権というのはありませんでした。ご存知だと思いますけれども。地方自治という考え方がそこには謳われていなかったということで、日本国憲法になって初めて地方自治という制度が、そこに謳われてということで、皆さんが座っている椅子は、戦後認められ

た椅子であります。それから、参政権ということですがけれども、明治の頃、一般の人は参政権を政治に参加したくてもなかなか参加することができなかった。一定の税金を納めるお金持ちなどが参加できるという仕組みだったわけです。ですから、今、皆さんが座っている椅子というのは非常に長い年月を経てそこに参政する、政治に参加するという資格を得たという、本当に貴重な椅子なわけでありまして。そのことをよく心に刻んでいただいて、今日の質問をお願いしたいと思います。

結びになります。市内各校の益々のご発展と、皆様方のご活躍とご健勝をご祈念申しあげ、私からのご挨拶といたします。

高校生議員の皆さん。よろしくお願ひいたします。

以上です。

○鈴木議会事務局長 ありがとうございます。続きまして、石岡市議会岡野議長、よろしくお願ひいたします。

〔岡野議長 登壇〕

○岡野議長 皆さん、こんにちは。市議会議長の岡野でございます。

高校生議会の開会にあたりまして、石岡市議会を代表いたしまして、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、市内4校から15名の高校生の皆さんにご参加いただきました。このたびの開催にあたりましては、各高校の先生方をはじめとする関係者の皆様にたいへんご協力をいただきまして、あらためて心より感謝を申し上げます。

高校生の皆さんにとっては、選挙権年齢が18歳に引き下げられ、選挙、そして政治がより身近になったことと思います。今回、高校生議会に参加することで、皆さんがこれから選ぶことになる議員、そして市長が、議会でどのようなことを行い、そして市政がどのように動いていくのか、その一端を体験し、理解を深めていただけたら幸いです。

今回の高校生議会は、石岡市において初めての開催となります。皆さんは、石岡市にとって初めての高校生議員であります。ぜひ、日頃、この石岡市について感じていることを、皆さんなりの視点で、堂々として質問、ご提言いただきたいと思ひます。私ども議員も、楽しみにしております。

結びに、本日の経験が、皆さんの将来、そして石岡市の将来にとって有意義なものになることを祈念いたしまして、私からのあいさつとさせていただきます。

○鈴木議会事務局長 ありがとうございます。続きまして、本日、茨城県議会議員戸井田和之様にご臨席をいただいておりますので、ご挨拶を頂戴いたしたいと思ひます。

戸井田様、よろしくお願ひいたします。

〔戸井田県議会議員 登壇〕

○戸井田県議会議員 皆さん、改めまして、こんにちは。

〔「こんにちは」と呼ぶ者あり〕

○戸井田県議会議員 もうちょっと元気出そうか、緊張しているのかな。

はい、皆さんこんにちは。

〔「こんにちは」と呼ぶ者あり〕

○戸井田県議会議員 はい、ありがとうございます。

ただ今ご紹介いただきました、ここは石岡市議会でございますけれど、私は県議会、茨城県の議会の議員をしております、戸井田和之と申します。石岡市議会の議員さんたちは、この石岡市の中から、今は議長、現在22名でしたか、22名の市会議員さんがいま出ているわけですけど、私は、この石岡市の選挙区から、ここは2名定員がおるわけでありますが、その中で、県政壇上の方に送り出していただいております戸井田でございます。今日は県立高校と私学の市内4校の生徒が来るということで、私も県の方でその担当をしているもので、今日はお招きいただいて本当に嬉しく思っている次第でございます。この石岡市の高校生議会、県内では市議会としては初めてでありますね。たいへん、岡野議長をはじめ、各議員の提案によりまして、今泉市長が高校生議会をやってみたい、それで皆様の様々な願いや思いを聞いてほしいということでこの議会が開かれたと思っておりますから、どうか皆さま方、皆さんは各学校で選挙で選ばれたんですか。選挙じゃない。推薦かな。選ばれたんでしょうけど、各学校の代表として、正々堂々緊張しないで、自分たちだったらこの石岡市がどうあってほしいかなとか、自分たちが住みやすい街をつくるんだったら、どういうふうなことをしたらいいかなということ、今日は市長をはじめ皆さん完璧に、教育長もいらっしゃいますね、お答えをさせていただけると思っていますので、是非ともお願いしたいと思っております。私ども茨城県議会でもハイスクール議会というのをやっておりますけど、去年はその高校生議員になった中で面白い質問が出ましてね、知事あてに何を聞くのかなと思ったら、なぜ選挙に行かなきゃならないの、という質問が知事にありまして、知事たじたじで答弁しておりましたけど、そういう本当に身近な問題、自分たちが常日頃思っているどんな問題でも結構でございますから、質問させていただいて、自分たちの身になるように頑張ってくださいね、そう感じている次第でございます。議場の中じゃなくても、終わった後で、もうちょっと聞きたかったなということがありましたら、私も最後までおりますので、県の事とか、また、もっともっと細かいことがあったら聞いていただければ、私の方からも、また皆さんの方からもお答えさせていただけると思っていますので、是非ともお願いしたいと思っております。

結びになりますが、ここの議場に来ると、なかなか私も毎回緊張するんですけど、緊張しないで大きな声ではきはきと頑張ってくださいね、私からの歓迎のご挨拶と開催についてのお祝いの言葉を述べさせていただきました。どうもありがとうございました。頑張ってください。

○鈴木議会事務局長 ありがとうございます。戸井田様におかれましては、このあと、傍聴席からご観覧いただけるとの事でございます。

これから、高校生議会の準備をいたしますので、しばらくお待ちください。

〔会場準備〕

○鈴木議会事務局長 それでは、改めまして、高校生議会の開会宣言です。開会の宣言を石岡市議会池田副議長にお願いいたします。

〔池田副議長 登壇〕

○池田副議長) ただいまから、石岡市高校生議会を開会いたします。

○鈴木議会議務局長) ありがとうございます。

それでは、最初の議長を務める、石岡第一高等学校の藤岡美都さん、ごあいさつをお願いいたします。

〔藤岡美都議長 登壇〕

○藤岡美都議長) 皆さんこんにちは。このたび高校生議会で議長を務めさせていただくことになりました、石岡第一高等学校の藤岡美都です。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日の高校生議会の開催にあたりまして、今泉市長さん、岡野議長さん、櫻井教育長さんをはじめ、市議会関係者の皆さん、市職員の皆さんのご協力をいただきましたこと、高校生議会議員を代表いたしまして心から感謝申し上げます。

本日は15名の高校生議員が精一杯質問させていただきますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

〔藤岡美都議長 着席〕

○藤岡美都議長) ただいまの出席議員数は、15名です。定足数に達しておりますので、ただいまから、石岡市高校生議会を開会いたします。はじめにマスコミ関係者及び傍聴されている方々に申し上げます。本日の会議中の写真撮影につきましては、議長においてこれを許可いたします。なお、撮影場所は、傍聴席に限定いたしますとともに、撮影にあたりましては、会議の進行や傍聴の妨げにならないようご配慮願います。

それでは、これより本日の会議を開きます。

はじめに、説明のため議場に出席を求めました方々のご紹介をいたします。

市長、今泉さん。副市長、根本さん。市長公室長、加藤さん。総務部長、久保田さん。財務部長、古内さん。財務部理事兼庁舎建設担当、越渡さん。生活環境部長、齋藤さん。保健福祉部長、小倉さん。経済部長、諸岡さん。都市建設部長、菱沼さん。教育長、櫻井さん。教育部長、武熊さん。消防長、小松崎さん。会計管理者、横田さん。監査委員事務局長、飯田さん。農業委員会事務局長、大関さん。八郷総合支所長、真家さん。以上であります。

次に、本日の議事日程は、お手元に配付いたしました議事日程表のとおりであります。

これより議事日程に入ります。

日程第1会期の決定を議題といたします。お諮りいたします。石岡市高校生議会の会期は、本日1日限りといたしたいと思っております。

これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○藤岡美都議長) ご異議なしと認め、さよう決しました。

○藤岡美都議長) 次に日程第2一般質問を行います。

市政一般に関する質問は、高校生議員の皆さんから、あらかじめ提出していただいた通告の内容にそって行います。

はじめに、議席番号1番、石岡商業高等学校の伊藤美樹さん、お願いいたします。

[伊藤美樹議員 登壇]

○1番 伊藤美樹議員) 石岡商業高校からきました、伊藤美樹です。石岡市内における介護施設への待機問題について質問させていただきます。

近年、少子高齢化が進む中、夫婦で共働きをする家庭が増え、また子供も家を出たり、働きに出たりして、高齢の親に対し面倒をみるのが難しく、介護施設へ入居を希望される方も多くいると思います。しかし、石岡市内の特別介護老人ホームには、たくさんの待機者数があると聞いています。

この問題は、介護施設数や介護福祉士の方が少ないからでしょうか。

現在、入居者・入居希望者数に対しての介護関係者の割合はどのようになっていますか。

また、石岡市内だけでみても、高齢の方は多いと思います。今、元気に生活されている方の健康を維持するために、何か対策はとられていますか。例えば、月に何度か交流会を開き、シルバー体操をしたりするなどはいかがでしょうか。

最後に、介護や福祉に携わる人材を確保するために、現在、介護等を学んでいる学生に対し、何か手当や補助等の援助はされていたりしますか。もし、されているなら、具体的な内容を教えてください。

○藤岡美都議長) 市長今泉さん。

[今泉市長 登壇]

○今泉市長) 石岡商業高校の伊藤美樹さんにご答弁いたします。

特別養護老人ホームは、石岡市内に現在10施設あります。定員は533名、利用者は448名で、差し引きますと受け入れ可能なのは85人というような状況です。

ところが、平成29年度は62人の待機者がいました。これは、希望する施設の空きがなかったためであって、介護施設数が足りなかったり、介護福祉士が少ないということが関連しているわけではありません。ちなみに、一般的に入居者100人に対して約4割の介護関係者が必要と言われてはいますが、石岡市内の各施設ともその条件は整っております。

従いまして、これからの事を考えますと、施設の運営方針が大切であると思っております。利用者とその家族にとっては自宅と勤務地、あるいは、病院などへの立地条件が選択の大きな要素となってくるわけです。それにも増して、入居者寄り添う運営方針は重要なわけでありましてけれども、今後とも待機者が出ないよう、将来を見据えた対応を施設ともども一緒になって考えていきたいと思っております。

それから2番目の健康対策ですけれども、これについては高齢者を支える地域包括支援センターというところがありまして、そこが中心となってこれに取り組んでいるところであります。65歳以上の高齢

者は、今、石岡市に2万3,500人おります。人口の約3割にあたりますけれども、その健康維持は大きく、運動と生きがいづくり、この2つに分かれておりまして、その2つを主として行っております。

筋肉と柔軟性の衰えから老化が始まりますので、シルバーリハビリ体操というのをやっているわけですが、誰もができる体操で運動能力を自ら守るために考案された体操で、いつでもどこでも誰もができる体操という性格のものであります。これを昨年度は96回教室で行い、延べ2,300人が実行しています。そういう中で、今後ますますシルバーリハビリ体操広がっていくと考えております。

それから、生きがいづくりですが、市内6か所に設置して在宅介護支援センター、これが中心になって今取り組んでおります。参加するとポイントが貯まるプラチナ応援カード、これによって講座参加の人数がどんどん増えているところがありますけれども、昨年、介護予防教室を延べ294回行って、約6,300人が延べで参加いたしました。

このように、高齢者の生きる力を内側から湧き上がるように応援して、相互に助け合えるような環境を整えていくことが高齢者の健康づくりにつながるものと考えております。

まさに伊藤さんが提案するとおりで、健康寿命を延ばすための取組は、ますますこれから重要になってくるかと思っております。

最後に、介護福祉の人材を確保するための手当や補助についてですが、石岡市では、保健師、看護師等を養成する制度として、奨学金制度、これを設けております。年間43万2,000円で、現在3名の学生が対象となっております。これをもっと広く制度を知ってもらうために、今後皆さんのそれぞれの学校にお願いして多くの皆さんに周知して奨学金を広めていきたいと思っております。

以上です。

○藤岡美都議長） 1番・伊藤美樹さん。

○1番 伊藤美樹議員） ありがとうございます。現在の介護施設や介護施設の関係者、また、高齢者の方々の健康維持など現状を知ることができました。また、私たちも積極的にボランティアなどに参加し、まちおこしなどを通し、市全体が活気にあふれるまちになるようにしていきたいと思っております。

以上です。ありがとうございます。

〔拍手〕

○藤岡美都議長） 以上で、1番・伊藤美樹さんの一般質問を終了します。

次に議席番号2番、石岡第二高等学校の関町将太さん、お願いいたします。

〔関町将太議員 登壇〕

○2番 関町将太議員） 石岡第二高校から参りました関町将太です。私は、家族の仕事の関係で引っ越しが多く、これまで広島や宮城などいろいろな場所で生活してきました。小学4年生の時に石岡に引っ越してきましたが、石岡は、田畑が多くその光景が美しく感じました。しかし、農業を行っている人を目を向けると、高齢の方が多く働いているように見えました。現在は機械を使って農業を行っているとはいえ、大変ではないかと感じました。質問ですが近年石岡市の世代別の就農割合はどのように変化しておりますか。また就農割合を高めるための取り組み、とりわけ若い世代の割合を高めるためにどのよ

うに取り組んでいますか。お伺いいたします。

○藤岡美都議長) 市長今泉さん。

[今泉市長 登壇]

○今泉市長) 石岡第二高等学校の関町将太さんにお答え申し上げます。

1点目の世代別の就農割合、どのように変化していますかということですが、今、手元にデータがございまして、農業センサスという統計資料、これによりますと、2010年20代は5.5%ありました。それが5年経って2.13%と半減しております。それから50代をみますと23%。それが2015年では10%となっております。そして70代をみますと、2010年は20%、2015年は30%ということで、今のデータからみますと、若い人が減って高齢化が進んでいるという就農割合になっているわけでありまして。

そして、2番目の若い世代の就農割合を高める取り組みについてですが、2つありまして、国の支援制度と市独自の研修制度、この2つを実施しております。

初めに、国の支援制度ですが、45歳未満の新規就農者に対し、就農間もない不安定な時期であるということで、5年間は生活を支援するため、独身だと年間で150万円、夫婦だと年間で225万円の支給が得られる給付金制度、この活用を薦めることを相談をいただいた際に情報提供として行っております。

新規就農者研修施設「朝日里山ファーム」というところがあるんですが、昨年開設しまして、今年で2年目を迎えました。ここで、有機農業で就農希望者を毎年夫婦で1組ずつ受け入れ、2年間の研修後は石岡市で独立して、就農していただく制度を進めております。

栽培指導については、J Aやさと有機栽培部会の全面協力を得て、研修生1組につき有機栽培部会の先輩農家の方が1人、指導についていただいていることや、販路についても、J Aやさとの協力が得られるため、独立後も安定した経営を行っています。

このように充実した支援制度を整備し、若い農業後継者の確保に取り組んでいるところであります。以上であります。

○藤岡美都議長) 2番・関町将太さん。

○2番 関町将太議員) 石岡の農業についてよく知れたので良かったです。農業は石岡の良いところだと思うので、これから伸ばしていければいいんじゃないかなと思いました。ありがとうございました。

[拍手]

○藤岡美都議長) 以上で、2番・関町将太さんの一般質問を終了します。

次に議席番号3番、石岡第一高等学校の鈴木智華さん、お願いいたします。

[鈴木智華議員 登壇]

○3番 鈴木智華議員) 石岡第一高等学校から来ました鈴木智華です。

小学校から中学校にかけて様々な税金について学習しました。例えば、たばこ税、酒税、消費税、入湯税、所得税などです。間接税と直接税の違いについても学習しました。また、公立の小中学校の教科書やパソコン実験器具、体育用具、消防署や警察署の活動、ごみの回収や処理、宇宙開発や科学技術の研究などに税金が使われていることを学習しました。ただ、全体的にみて、集められた税金の使われ

方に関して、どんな特色がみられるのか深く考えたことはありませんでした。もしそうした特色が、石岡市の税金の使われ方に見られるのなら、石岡市という地域が抱えている課題について、理解が深まるのではないかと考えました。学校では、税金には、間接税や直接税などの様々な種類があることを勉強しました。そうした税金は様々なことに使われていると思いますが、石岡市の税金の使われ方は、何か他の市町村と比べて特色があるのでしょうか。あったら教えてほしいです。

○藤岡美都議長) 市長今泉さん。

[今泉市長 登壇]

○今泉市長) 石岡第一高等学校の鈴木智華さんの質問について、お答えいたします。

税金の使われ方でありまして、市に納められる税金、これは市が行政運営を行う上で、最も重要なお金で、広い分野のあらゆる行政サービスに使われております。

平成30年度当初予算の市の税金の額でございますけれども、市民税そして固定資産税の合計で約98億円となっております。一般財源の方で歳入は総額320億円でございますから、約3割を占めているわけです。

次に、税金の使い方でありまして、歳出総額、歳出というのは、支出ですね。支出総額は歳入と同じく320億円で、保育や高齢者・障害者サービスの経費など、基礎的な行政サービス経費や、道路や公園などの建設費用、その他の様々な行政サービスに使用されております。

また、税金の使い方の特色でありまして、市税、先ほど申し上げた、固定資産税とか市民税ですね。それが3割ということでありまして、他の市町村と同様に、国からのお金、地方交付税、これに依存しているわけです。ですから、税金の使い方の自由度が少なくなっている現状であります。

当市を取り巻く現状は、人口減少、少子高齢化など、課題もたくさんあります。そういった中で未来を創造していく計画として「未来創造プラン」を策定しまして、「リーディングプロジェクト」、その中で、人口減少対策や、安全・安心のまちづくりといった重点事業を決めて、それをそこに多くの予算を配分して進めております。

平成30年度では、「結婚・子育て応援プロジェクト」、ここでは妊婦歯科検診や産後ケア事業、産婦健康診査への助成、新しい統合保育所の整備などの事業を予算化しております。

また、「教育改革プロジェクト」、これは、全中学校にタブレットの導入やデジタル教科書など、ICT環境の整備を進めております。

それから産業関係のプロジェクトでは、今、筑波山麓では、いのししの被害がたくさん出てまして、その被害を抑制するため、地域ぐるみで考え、効果的な被害防止を進め、そういったお金をいのしし被害対策に使っていたり、それから創業支援の充実、企業誘致の推進し、市内の就業機会の充実に取り組んでいます。

「魅力アップ観光交流プロジェクト」では、石岡のまちをりんりんタウン構想ということで、自転車のまち、自転車が走りやすいまちにしようということで、今、構想をねっているところであります。それから、ステーションパークの活用、駅の脇にあるステーションパークですね。あそこにお店をつく

ったりですね、それから大学生などが通学しやすいように、通学定期券購入に対する補助、そういったものに取り組んでおります。

今、ご紹介した事業は一部でございますけれども、石岡市らしいまちづくりに向けて、様々な事業に取り組んでいるところであります。

それから、ふるさと納税というのがあります、石岡以外に住んでいる人から、寄付をしてもらって、そのお金がここ数年間で毎年3億前後集まっておりまして、そのふるさと納税の寄付金を使って、小学校に入る子どもたちにランドセルを寄付したり、それからふるさと学習のテキストを作ったりですね、石岡らしい個性あるまちづくりに、そういうお金を使っています。

以上が、その税金の使い道の石岡の特徴かと思えます。

○藤岡美都議長） 3番・鈴木智華さん。

○3番 鈴木智華議員）石岡を良くするために、保育や道路をなおすなど、たくさんの税金が使われていることが分かりました。ありがとうございました。

〔拍手〕

○藤岡美都議長）以上で、3番・鈴木智華さんの一般質問を終了します。

次に議席番号4番、青丘学院つくば高等学校の金賑河さん、お願いいたします。

〔金賑河議員 登壇〕

○4番 金賑河議員）青丘学院つくば高等学校から来ました金賑河です。

日本において少子高齢化は、私たちの将来を左右する重要な問題となっています。

ここ最近の状況では、国立社会保障、人口問題研究所「日本の将来推計人口」における出生中位推計を基に見てみると、総人口は、2030年の1億1,662万人を経て、2048年には1億人を割って9,913万人となり、2060年には8,674万人になるものと見込まれています。

そのため、高齢化率は2010年の23.0%から、2013年には25.1%で4人に1人を上回り、50年後の2060年には39.9%、すなわち2.5人に1人が65歳以上となることが予測されます。このように、日本は、今後、人口減少と少子高齢化の急速な進展が現実のものとなり、この中で新たな地域社会の創造に向けた取り組みが不可欠であると考えられます。

そこで私は、考えられる様々な取り組みの中から「小さい子どもからお年寄りまで、各世代間のふれあい、あるいは交流の機会」について、石岡市では現在どのような取り組みが行なわれているのか。また、今後どのような取り組みを計画なされているのかをご質問いたします。

あわせて、このような取り組みは地域社会の中で失われつつある「ご近所付き合い」にも良い影響を与えると考えます。例えば、1人で暮らしているお年寄りの家に子どもが訪問することで、お年寄りは子どもから元気もらい、子どもはお年寄りから様々な知識をもらう事ができます。さらに、子育て世代にとっても子どもの世話をさせていただくことを通して子育てのノウハウを得る機会や相談をする機会に恵まれると思えます。石岡市では、地域のふれあいや交流において政策上でどのようなことを大事に考えているのかをご質問いたします。

○藤岡美都議長) 市長今泉さん。

[今泉市長 登壇]

○今泉市長) 青丘学院つくば高等学校の金賑河さんの質問にお答えします。

石岡市における、少子高齢化時代の世代間交流のあり方について、お答えいたします。

まず石岡の高齢化率ですけれども、先ほどのデータよりも高く、現在で31%、2060年になると46%を上回ると予測されております。たいへん高い高齢化率人口減少と少子高齢化対策に、これまで以上に取り組む必要性を強く認識しているところであります。

そういった中で各世代間の交流等の取り組みですけれども、まず1つに「いきいきクラブ」というのが、老人クラブですけれども、このいきいきクラブが地元の小学校や子ども会と連携しながら、花壇の整備ですとか、合同文化祭、シルバーリハビリ体操などの機会を通して、子ども達と相互理解交流を図る取り組みを行っています。

それから、先ほどちょっと触れましたけれど「生涯現役プラチナ応援事業」という、参加するとポイントがもらえるという制度がありまして、そういった制度を通じて地域貢献活動や生きがいきり活動、そういった地域活動が盛んになるような支援策も行っています。

あるいは、社会福祉協議会というのがあるんですが、そこでプラチナファッションショーを開催し、1歳から101歳までがモデルとしてファッションショーを行う、そういった観客も含めた交流や仲間づくりなどの取り組みを行っています。

今後の取り組みの計画についてですけれども、1つの考え方としてお年寄りに蓄積されている地域の知恵と伝統ですね、それを子ども達に託し、未来へ伝承していくという取り組みがあるかと思えます。それについては、この度新築された小幡地区公民館というのがあるんですけれども、「小幡みらい大学」という、そういう1つの組織を作って「ふるさと学習」と「学習支援」、この2つを軸とした世代間交流を行って、今月28日からスタートしていきたいと考えております。

「ふるさと学習」では、子どもと大人が、地域への想い、誇り、愛着を高めるために、世代を超えた地域住民が集い、地域の歴史・伝統・言い伝えなど後世へ継承していく取り組む計画であります。

「学習支援」では、地域の小・中学生が自主学習に取り組む上で、分からない部分を地域の先輩方に教えてもらうという学習支援の場を設ける計画です。

最後に、政策上でどのようなことを大事に考えているかについては、近年、少子高齢化、核家族化などの社会情勢や地域の変化に伴って、昔ながらの家庭や地域の付き合いが希薄化し、助け合いや支えあいなどの機能が失われていく状況があります。そういったものを地域で大切にしながら、住み慣れた地域で安心して幸せに暮らせるように、互いに助け合っていくことが大事であると考えております。

ひとり暮らしのお年寄りも増えておりますけれども、ひとり暮らしという形態よりも大事なものは、孤独にならないという精神的な部分そういったものが近所隣のお付き合いがより密になるような、金賑河さんが提案したような、地域社会が形成されていけば素晴らしい地域になるのではないかなと思えます。

以上です。

○藤岡美都議長) 4番・金賑河さん。

○4番 金賑河議員) 公民館を建てたりいきいきクラブなどのイベントを通して、世代間のふれあい、また伝承の取り組み、また、促進を図っているということがよく分かりました。

今後もそういった活動を続けていただきたいと思います。答弁していただき、誠にありがとうございました。

[拍手]

○藤岡美都議長) 以上で、4番・金賑河さんの一般質問を終了します。

次に議席番号5番、石岡商業高等学校の大塚雅弥さん、お願いいたします。

[大塚雅弥議員 登壇]

○5番 大塚雅弥議員) 石岡商業高等学校から来ました大塚雅弥です。

石岡市から他の自治体への職員派遣について質問させていただきます。

「いしおか市議会だより第61号」を読んで、石岡市から県や他の自治体へ職員を派遣していることを知りました。最近では、民間企業へも派遣を行っているようですが、なぜ、職員派遣を行おうと思ったのですか。その目的と派遣することになった経緯を教えてください。そして、職員派遣をこれまでに何回行い、どれくらいの人数が派遣されてきたのでしょうか。

また、議会だよりから、被災地である気仙沼市にも職員派遣を行っていることを知りました。気仙沼市では、具体的にどのような業務を行っているのでしょうか。被災地ということで、復興支援に関する業務に携わっているのでしょうか。教えてください。

最後に、他の自治体から石岡市へ職員が派遣されているケースはあるのでしょうか。職員派遣によって、どのような効果が得られるのか伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

○藤岡美都議長) 市長今泉さん。

[今泉市長 登壇]

○今泉市長) 石岡商業高等学校の大塚雅弥さんの質問にお答えします。

他の自治体への職員派遣についてですけれども、まず派遣したきっかけですけれども、まず、派遣した相手方の団体から職員を派遣して欲しいといった依頼があって、それに応えるために職員を派遣しているのが1つです。具体的な例を挙げますと、東日本大震災で被災した市町村からの依頼を受け、災害復旧・復興を目的として、宮城県気仙沼市や福島県双葉町に職員を派遣しております。

2つ目としては、派遣先でたくさんの方のことを学んできてもらい、それを将来の石岡市のために役立てて欲しいという思いで職員を派遣しているのが2つ目です。

国や県、他の自治体、そして、民間企業など、市役所とは違う環境で仕事をする中で、市役所の中だけでは得ることのできない貴重な経験を積むことができるわけであります。

その経験を市の事業に活かしてもらおうとともに、周りの職員にその影響を伝えたり新しい風を石岡市に吹き込んで欲しい、そういったことを期待して職員を派遣しております。

それから、どれぐらいの人数の職員を派遣したのか、その派遣の実績ですけれども、石岡市が合併

した平成17年10月以降、茨城県など20団体に、89人の職員を派遣してきています。

主な派遣先としては、総務省、茨城県、気仙沼市、双葉町などの自治体。民間企業では、株式会社電通、そういったところに派遣して、市役所にもどってきた職員それぞれが、派遣先で培ってきた知識、経験を、現在の職場でそのノウハウを活かしているところでもあります。

特に、気仙沼市へは全国各地からさまざまな職種の職員が復旧・復興のために派遣されてきていますので、気仙沼にいて全国各地の職員とネットワークが作れるという、そういうこともあります。帰ってきてから全国ネットが展開できるということも考えられます。この質問は「議会だより」で職員派遣の事を知ってくれたということですが、気仙沼へは昨年度と今年度、消防職の職員を気仙沼市に派遣しており、気仙沼市役所の総務部危機管理課という部署で勤務しております。

具体的な業務としては、地域に住む住民が協力・連携して、災害から自分たちの地域を守るために活動する「自主防災組織」の結成のお手伝いや、子供たちに対し防災意識の向上を目的とした「地元小中学校での防災講座の開催」、さらには防災訓練の計画づくりなどの業務にあたっております。

最後に、石岡に派遣されてくるケースとその効果についてですが、職員派遣については、人事交流としてお互いに職員を派遣しあうこともありますので、これまでも多くの職員が石岡市に派遣されております。具体的には、茨城県の職員や社会福祉協議会という社会福祉を行う団体の職員が石岡市に派遣で来てくれております。

そういった他の職員の方が持っている知識や経験を市の事業に活かすことができることや、他の団体の取り組みなどを教えてもらうことで、市の職員も新たに気づきを得ることができるのがメリットだと思います。今後も効果的な職員派遣を行っていきたいと考えております。

以上です。

○**藤岡美都議長**）5番・大塚雅弥さん。

○**5番 大塚雅弥議員**）職員派遣により他の自治体や県の助けになっていることが分かりました。ありがとうございます。

〔拍手〕

○**藤岡美都議長**）以上で、5番・大塚雅弥さんの一般質問を終了します。

次に議席番号6番、石岡第二高等学校の寄名綾乃さん、お願いいたします。

〔寄名綾乃議員 登壇〕

○**6番 寄名綾乃議員**）石岡第二高等学校から来ました寄名綾乃です。

公園の整備状況について質問させていただきます。

登下校の途中でみる公園は遊具が少なく、公園で遊んでいる子どもたちがあまり多くみられないように感じます。私は、多くの子どもたちが公園を利用することにより、遊具を使って身体機能の向上、多くの子どもとふれあうことにより社会性が向上すると考えています。質問ですが、現在市内に子どもが遊べる公園はどのくらいありますか。また、公園で遊ぶ子どもを増やすため遊具などを多く取り入れた公園を整備する計画はございますか。お伺いいたします。

○藤岡美都議長) 副市長根本さん。

[根本副市長 登壇]

○根本副市長) 石岡第二高等学校の寄名綾乃議員の、公園の整備状況についてお答えいたします。

公園というものは、心身の健康の維持増進効果、それから子どもの健全な育成効果などが期待されておりまして、健康運動の場でもあり、様々な余暇活動の場でもあり、さらには防災拠点としての役割も担っております。

お尋ねの、子どもが遊べる公園の数ということでございますけれども、当市が維持管理を行っている公園としては、宮下児童公園、中央児童公園など全部で40の公園がございます。

その内、子供達が遊ぶ遊具のある公園は、国府公園、柏原池公園など全部で18公園、約半分にございます。

次に、遊具などを多く取り入れた公園の整備計画についてでございますけれども、現時点では、遊具などを多く取り入れた公園の新たな整備計画というのはございません。しかし、平成25年に国の交付金などを活用いたしまして、石岡市運動公園と柏原池公園にコンビネーション遊具、これはターザンロープとか、滑り台とか、うんていなど、そういった遊具を備えたものでございますけれども、そういったものを設置しております。

一方で、この設置した遊具のですね、安全管理という問題も出てまいりますので、今後とも、市民の皆様の声を聴きながら、安全で快適な公園づくりを目指し、整備を進めるための色々な制度を活用して必要に応じて対応をはかって参りたいと考えております。

○藤岡美都議長) 6番・寄名綾乃さん。

○6番 寄名綾乃議員) これからの計画の事が色々分かりました。ありがとうございます。

[拍手]

○藤岡美都議長) 以上で、6番・寄名綾乃さんの一般質問を終了します。

次に議席番号7番、石岡第一高等学校の栗山葵衣さん、お願いいたします。

[栗山葵衣議員 登壇]

○7番 栗山葵衣議員) 石岡第一高等学校から来ました栗山葵衣です。

石岡の知名度向上のために行っている政策について質問させていただきます。

テレビを見ていると、石岡市出身の有名人を見かけることがあります。例えば、お笑いタレントの渡辺直美さんやプロ野球横浜DeNAベイスターズの須田幸太選手などが石岡市出身です。

また、石岡市のお祭りは「関東三大祭り」に数えられ、祭りの当日には、駅から近いこともあり、大勢の人たちが来ます。祭りには、たくさんの山車や獅子が登場します。私自分も見に行ったことがありますが、とても楽しくて今年も行く予定です。

ただし、茨城県にも言えることですが、全国的にみて、好感度も高く有名だとは、なかなか言えません。

石岡市には、お祭りや有名人の出身地など、全国的に有名なものがあると思いますが、より多くの人

に石岡市の事を知ってもらえるように、行っていることを教えてください。

○藤岡美都議長）副市長根本さん。

〔根本副市長 登壇〕

○根本副市長）石岡第一高等学校の栗山葵衣議員の石岡市の知名度向上のために行っている対策についてのご答弁を申し上げます。

当市でも石岡市の知名度を向上させるということは、市の魅力や活力アップのためにたいへん重要な課題であると考えております。石岡をたくさんの人に知ってもらって、イメージアップを図ることができれば、そこに訪れる人が増えて、また、物が売れて、働く場所が増えるなど、この石岡の地域経済の良い循環であるとか、人口減少の歯止めにも効果が期待できるのではないかと考えております。現在、石岡市が通常的に実施をしている具体的な対策でございますけれども、1つとして、毎月ですね、新聞各社に石岡の旬の話題を提供するという、定例記者会見の実施。それから、東京都庁ほか、市の外、市外でですね、各所で実施をしております、石岡の観光、あるいはグルメのPR活動の実施。それから、市が持っております市所有のバスをラッピングいたしまして、今はおまつりのラッピングバスを持っているんですけど、そのバスを活用して各地でお祭りのPRを実施するとか、そういったことを行っております。また、今年の秋には新たにですね、ふるさと石岡映像コンテストというものを実施いたしまして、石岡地域の魅力の再発見につなげてたいと思っております。市役所としては全部署を挙げて1年を通して、こうしたいろいろな情報発信に力を入れているところでございます。

議員ご指摘の通り、当市には期間中40万人を超えるという石岡のおまつりでありますとか、それから美味しいくだもの、それから野菜、古く古代から茨城の中心地として栄えてきた歴史とか文化、それから、今の街中ですね看板建築の街並み、それと霞ヶ浦の水辺環境から筑波山麓の里山景観までを有する、茨城のまさに原風景とも思われるような地域の魅力が詰まっているところでございます。そういったところを発信する上に、石岡にはそうした魅力を外向けに発信するという意味で、それを紹介したりあるいは拡散してくれる人材というものも大変重要であると考えております。先ほど議員のご指摘がありましたように、今やSNSを使った情報発信では世界的な人気者になっております、渡辺直美さんですとか、昨年石岡市のふるさと大使に任命させていただいた、人気バンドのムックなど、当市出身の多数の著名人も各分野で活躍中でございますので、こうした方々の力も借りながら石岡の持つ素晴らしい魅力をですね、外向けに発信できればと考えております。これからも石岡市を日本中、世界中にもっと知ってもらうというための活動を石岡市としても行ってまいるところでございますけれども、これにつきましては、やはり市民の皆さん、また関係する団体や企業、こういった方と連携をしまして、PR活動を進めていくことがどうしても必要になってくると思います。そうした中では、SNS等の活用に長けている学生、特に高校生の皆さん方が発信力、その情報を共有する力ということについては可能性を秘めていると思いますので、どうか栗山議員においてもですね、是非今後、当市の良いところを市外のご友人やお知り合いなどにどんどんPRしていただいて、石岡の知名度と魅力度を高めることに一緒に協力していただければと思います。

○藤岡美都議長) 7番・栗山葵衣さん。

○7番 栗山葵衣議員) 石岡市のイメージアップのためにたくさんのことを行っていてびっくりしました。私自身もSNSをやっていて、たぶんここにいる高校生もけっこうSNSを活用していると思います。だから、私たち高校生で少しでも皆に石岡市の事を知ってもらえたらいいと思います。ありがとうございました。

〔拍手〕

○藤岡美都議長) 以上で、7番・栗山葵衣さんの一般質問を終了します。

次に議席番号8番、青丘学院つくば高等学校の渡邊航平さん、お願いいたします。

〔渡邊航平議員 登壇〕

○8番 渡邊航平議員) 青丘学院つくば高等学校から来ました渡邊航平です。石岡市における環境ボランティアの現状について質問させていただきます。

環境問題への関心が高まる中で、「環境ボランティアを始めてみたい」と考えている人が増加していると言われています。ところが、「きっかけがない」「どんな活動があるかわからない」、「どこで情報を得たらいいかわからない」など、はじめの一步を踏み出せない人も多いようです。その一方でボランティアに参加して欲しいと願っている環境団体があります。

そのような現状から考えると、コーディネーターとして国や地方自治体の役割が必要であると思いました。それは、環境ボランティアを「やってみたい人」と「必要とする団体」を結びつけるのみならず、どのような内容を求めているのかという部分までコーディネートする上で必要があると思います。

また、環境ボランティア活動は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の復旧、復興に大きな原動力となった事例もあります。自然災害の多い日本において、今後ますます環境ボランティアが果たす役割は大きなものになると推察されます。さらに、環境ボランティア活動は国際的な活動でもあります。この活動を通じて互いの文化を理解しあう良い機会にもなります。

そこで各自治体では、環境ボランティアの活動を行なっている団体に様々な支援を行なっていますが、石岡市においてはどのような支援を行なっているのか。また、その内容についてご質問いたします。

あわせて、私たち高校生が環境ボランティア活動に参画する場合、石岡市としてどのようなことを期待するのかご質問いたします。

○藤岡美都議長) 市長今泉さん。

〔今泉市長 登壇〕

○今泉市長) 青丘学院つくば高等学校の渡邊航平さんのご質問にお答えいたします。

当環境ボランティアについてになりますけれども、自然環境の整備を目的とした山林や公園等の除草作業から、あるいは霞ヶ浦や池等の水辺環境の整備、筑波山、身近な公園の清掃など色々な分野で環境ボランティアという人たちが活躍しているかと思えます。

市としては、そのボランティア団体に対しどんな支援を行っているかということになりますけども、現在のところゴミ袋の配布、飲料水の提供、さらには、草刈りなどの刈払機の燃料費等にかかる実費相当分の支援を行っています。

高校生のボランティア参画については、平成27年度に「協働のまちづくり条例」というのを市で作りましたけれども、市民、地域コミュニティ、市民公益活動団体、事業者、そういった中でルールを定めて支援をしていく、あるいは役割分担をしていくということをやっていますけども、高校生のボランティア参画に関しては、社会参加、あとは奉仕の精神ですね、そういったものに参加しながら、学んでいていただきたいなということ。それから、環境ボランティアというと、自然の中で様々な奉仕活動をやっていくということになりますので、自然の中で活かされているという自覚ですね、それを感じてもらっていただければ大きな収穫になるのではないかなと思います。

いずれにしても若い世代の高校生が、ボランティア活動で様々なふれあいを経験し、世界を広げていくことは、素晴らしいことだと思っております。

以上です。

○藤岡美都議長) 8番・渡邊航平さん。

○8番 渡邊航平議員) 誠に貴重なご答弁をしていただきありがとうございます。

[拍手]

○藤岡美都議長) 以上で、8番・渡邊航平さんの一般質問を終了します。

ここで、議長を石岡第二高等学校の寄名綾乃さんと交代いたします。

皆さん、ご協力ありがとうございました。

[拍手]

○藤岡美都議長) 暫時休憩いたします。15分程度といたします。

[藤岡美都議長 退席]

—休憩—

[寄名綾乃議長 着席]

○寄名綾乃議長) 休憩前に引き続き、会議を開きます。

私は石岡第二高等学校の寄名綾乃です。

ここから、私が議長として会議を進めていきますので、よろしく願いいたします。

それでは、次に議席番号9番、石岡商業高等学校の岩木綾音さん、お願いいたします。

[岩木綾音議員 登壇]

○9番 岩木綾音議員) 石岡商業高等学校から来ました岩木綾音です。

いきいき茨城ゆめ国体・東京オリンピック・パラリンピックにおける石岡市の取組及び感染症対策について質問させていただきます。

来年の9月から10月に茨城県内にて、「いきいき茨城ゆめ国体2019」「いきいき茨城ゆめ大会2019」

が行われます。昭和49年に開催された前回の茨城国体では、郷土の応援を背にした選手団の活躍で、天皇杯、皇后杯ともに総合1位を獲得したそうです。今回の大会で茨城県及び石岡市が、特に力を入れているスポーツはありますか。また、石岡市として今回の国体を成功させるために、取り組んでいることなどはありますか。具体的な政策を教えてください。

そして、2020年には「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。開催にあたり、茨城県内でも事前キャンプ地やホストタウンの誘致が行われていると聞きます。石岡市では、オリンピックに向けて、どのような取り組みが行われているのでしょうか。具体的に教えてください。また、人の流れが活発になるため、様々な感染症の流行が予測されます。特に、日本人が免疫を持たないコレラ、ペスト、黄熱病が流行した場合、日本の医師は、このような疾患を診たことがないため、正確に診断できるのかという問題が出てくるそうです。これらの問題に対して、石岡市ではどのような対策、支援をしていく予定なのか、教えてください。

○寄名綾乃議長） 教育長櫻井さん。

〔櫻井教育長 登壇〕

○櫻井教育長） 石岡商業高等学校の岩木綾音議員の「いきいき茨城ゆめ国体2019」「いきいき茨城ゆめ大会2019」についてお答えをいたします。

初めに、「いきいき茨城ゆめ大会」、すなわち全国障がい者スポーツ大会についてでありますけれども、水戸市をはじめ県内11市で正式競技とオープン競技が開催をされます。残念ながら石岡市は、競技会場となっておりますので、特別な取り組みを行っておりませんので、ご了承をお願いしたいと思います。

次に、「いきいき茨城ゆめ国体」についての質問にお答えをいたします。

昭和49年に茨城県で開催をされました「水と緑のまごころ国体」の際には、石岡市では、バドミントン競技が開催をされました。以来、石岡市では、バドミントンが盛んに行われるようになりまして、オリンピック選手も輩出をしております。

また、昨年の愛媛国体では、バドミントン少年女子の部で、石岡市出身の3人ですね、お二人が石岡一高、もうお一方が常総学院で編成されたチームでありますけれども、初優勝を飾りました。このように、石岡市はバドミントンに力を入れておりますことから、来年の「いきいき茨城ゆめ国体」でも、バドミントン競技を開催することに致しました。

茨城県においても、市町村と連携をし、茨城国体での天皇杯、皇后杯総合1位を目指し、各競技の強化に取り組んでいるところでございます。

次に、ご質問の国体に向け、石岡市で実施している具体的な事業でありますけれども、1つめに、ハード面では、会場となる石岡運動公園体育館の改修工事を行い、選手の皆さんが気持ちよくプレーができるようにしたいと思っております。

2つめの、ソフト事業でありますけれども、バドミントン競技をしている子供達を対象に、実業団チームや大学生を招き、強化練習会を実施をしているところであります。

3つめの、おもてなし事業といたしましては、「花いっぱい運動」として、市内の小中学校や石岡一高の園芸科の皆様のご協力により、マリーゴールドやバーベナの花の栽培を実施をしております。これらの花は、来年の茨城国体の際には、試合会場や石岡駅、高浜駅などに飾られる予定でございます。

4つめの、機運醸成を図るための事業としまして、1つめは缶バッジやクリアファイルなど啓発用品の配付でございます。2つめは横断幕、のぼりの設置、さらには今年9月からですね、つまり1年前になりますけれど、石岡駅の改札前と市役所本庁にカウントダウンボードを設置しまして、更なるPRに努めてまいりたいと考えております。

また、11月には、茨城国体のリハーサル大会といたしまして、「バドミントンS/JリーグⅡ2018石岡大会」を開催致します。実業団16チームによる国内トップレベルの選手達による熱戦が繰り広げられます。市民の皆様には、ぜひ会場である石岡運動公園にお越しをいただき、雰囲気味わっていただきたいと思っております。

このリハーサル大会と本番の国体の運営につきましては、多くのボランティアが必要になってまいります。

多くの高校生の皆さんにも、ボランティアに参加をしたり、会場で茨城県選手を応援するなど、一緒に茨城国体を盛り上げていけたらと思っております。

○寄名綾乃議長）市長今泉さん。

[今泉市長 登壇]

○今泉市長）私からは、東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地の誘致及びホストタウンの登録について、お答えいたしたいと思っております。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、キャンプ地誘致を行うことは、スポーツ振興や地域経済、国際交流の推進、様々な効果が期待されます。

さらに、小、中学生の皆さんや、高校生の皆さんなどが、一流のアスリートを見る、じかに見ることのできる絶好の機会ということで、そういった意味では石岡市ではインド洋に浮かぶ小さな島ですけれども、モルディブ共和国、ここへの誘致活動を実施してまいりました。

これまでの活動状況としては、昨年3月30日に、私がモルディブ共和国大使館を訪問し、石岡市の紹介と事前キャンプ地として誘致したい旨の意向を伝えました。

その後、モルディブ大使による石岡市の視察がありまして、5月9日ですけれども、駐日モルディブ共和国特命全権大使による石岡運動公園などの視察が行われました。

また、平成30年3月30日には、モルディブ共和国のバドミントン協会のジュニア選手2名が来日して、石岡第一高等学校バドミントン部の皆さんと合同練習を行い、交流をしています。

それから、ホストタウンについてですけれども、ホストタウンというのは、東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、スポーツ振興、地域の活性化、グローバル化の推進に資する観点から、参加国の人や文化の相互交流を図る自治体を、国がホストタウンとして登録するもので、これに登録されま

すと、財政的な援助や人材の派遣、情報提供などの支援を受け、更なる活動の推進を図ることが可能となります。

今後もモルディブ共和国からの事前キャンプ誘致及び同国との相互交流の推進のためホストタウンの登録を目指して、積極的な事業展開を行っていきたいと考えています。

それから、感染症対策、支援の考え方についてですけれども、まず、質問にありますコレラやペスト、黄熱などの国内での発生状況ですが、コレラは毎年数件程度、ペストについては過去90年以上、黄熱については70年以上発生がございません。

オリンピックに伴い、万が一感染症が発生した場合などは、国において、まず、海外からの感染源の流入を防ぐため、空港や港湾等で、健康状態をチェックするなどの検疫体制がとられ、県では、保健所が中心となり、国から専門的な指導助言を受けながら対応することとなります。

石岡市としては、感染症対策として、健康調査の協力や、消毒等の指導、健康相談を実施するなど、市民の不安軽減や二次感染の予防等に努めます。

今後、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、厚生労働省においても感染症対策の強化の検討を進めており、石岡市はその国や県の動きに歩調を合わせて、必要な対策を積極的に取り組んでいく所存であります。

○寄名綾乃議長） 9番・岩木綾音さん。

○9番 岩木綾音議員） これから行われる大会などは、日本の方はもちろん、他国の方にも注目していただけるものだと思います。だからこそ、私たちが安心安全、そして笑顔を届けられることを目標にして、一丸となり多くの人の心に残るような素敵大会になることを強く願いたいと思います。以上です。ありがとうございました。

〔拍手〕

○寄名綾乃議長） 以上で、9番・岩木綾音さんの一般質問を終了します。

次に議席番号10番、石岡第二高等学校の笹沼一真さん、お願いいたします。

〔笹沼一真議員 登壇〕

○10番 笹沼一真議員） 石岡第二高等学校から来ました笹沼一真です。

観光客を増やすための政策について質問させていただきたいと思います。私は、石岡のおまつりが大好きで、幼い頃からおまつりをみてきました。

また高校生になりおまつりに参加しようと考えております。幼い頃みた石岡のお祭りは、人が歩けなくなるくらいの大勢の人が見に来ていてすごいパワーを感じました。しかし近年は、観光客が少なくなっているように感じます。質問ですが、石岡のお祭りに来る観光客は近年どのように変化していますか。また石岡のお祭りだけではなく、観光客を増やすためにどのような取り組みを行っていますか。お伺いいたします。

○寄名綾乃議長） 市長今泉さん。

〔今泉市長 登壇〕

○今泉市長）石岡第二高等学校の笹沼一真さんの質問にお答えします。

石岡のおまつりの観光客の変化ですけれども、過去5年間について述べたいと思います。平成25年が37万人、平成26年が47万8,000人、平成27年45万1,000人、平成28年が43万人ちょうど。平成29年が43万8,000人と、概ね40万人から45万人の観光客が訪れています。過去最高の人出は、平成26年の47万8,000人となっています。

石岡のおまつりの新たな取り組みですが、平成30年度から平成32年度までの3か年、地方創生交付金というのがありまして、国内外に石岡のおまつりの更なる認知度向上を目指して、おまつりの歴史的背景を踏まえた調査の実施を行うとともに、山車等の修繕を実施して、それをもとに市内外でのPRに活用していきたいと考えています。

一方今後は、首都圏を中心としたPRを行うとともに、人数が増えますと駐車場とか休憩所、観光客へのおもてなしが必要になってまいりますので、そういったことをきっちりと整えて、高校生を中心としたクリーンアップボランティアでゴミの無いおまつりに取り組んだりして、観光客数60万人を目指していきたいと考えております。

おまつりのPRですけれども、市のバスがあるんですが、バスのところに獅子の絵を描いて、市外へ行く時に「石岡のおまつり」のPRをできるようにしたり、また、東京都内の飲食店において、石岡の果樹や野菜、肉などを使い、石岡のPRを行いながら誘客の取り組みをやっていきたいと考えております。

それから、3年前から茨城県フラワーパークにおいて、ウィンターイルミネーションイベントを実施しています。このイルミネーションだけの人数ですけれども、平成27年度は2万1,000人、平成28年度3万2,000人、平成29年度4万6,000人ということで、毎年1万人ちょっとずつ増えています。平成30年度は、観光客の皆様喜んでもらえるように、これまでイルミネーションの数が60万球だったんですが、100万球を予定してまして、この増やした中で、新たなお客さんを取り込んでいきたいと思っております。

また、インバウンドといって、外国からのお客様、これについてもその受け皿作りをした上で観光客増強の方法で取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

○寄名綾乃議長）10番・笹沼一真さん。

○10番 笹沼一真議員）私も石岡のおまつりが賑やかで、より多くの観光客が来るようなおまつりにできるようにしていきたいと思います。ありがとうございました。

〔拍手〕

○寄名綾乃議長）以上で、10番・笹沼一真さんの一般質問を終了します。

次に議席番号11番、石岡第一高等学校の藤岡美都さん、お願いいたします。

〔藤岡美都議員 登壇〕

○11番 藤岡美都議員）石岡第一高等学校から来ました藤岡美都です。

市内の狭い歩道、道路などの改善について質問させていただきます。石岡市は地区によっては、とても歩道が狭いところがあります。そうした道を雨の日に歩いている人が、通りかかった自動車に水をかけられて、服が濡れてしまったのを何度か見かけたことがあります。

確かに場所によっては、三車線の道路もあり、車が通りやすくなっているところもありますが、歩道自体が広いとは限りません。

歩道が極端に狭いと、傘をさしたときに、車とぶつかってしまう危険性もあります。

私は、出身中学校が国府中学校なのですが、国府中学校の周りには、道が狭いところが多く、とても危なくなっていて、雨の日は、車が通った時に、水がはねてきてびしょびしょになってしまうことがありました。狭い道の整備について、何か改善案は出ているのでしょうか。

○寄名綾乃議長） 市長今泉さん。

〔今泉市長 登壇〕

○今泉市長） 石岡第一高等学校、藤岡美都さんのご質問にお答えします。

石岡市が管理する道路は、路線数8,231路線、その延長が1,969キロメートルという非常に多くの数、そして長い距離を管理しているわけであります。

道路整備については、狭い道路の拡幅や舗装、また、側溝整備など、毎年、多くの市民から要望が数多く寄せられています。

そのような中で、特に通学路や危険箇所については、最優先で整備を進めております。いずれも歩行者の安全を確保するための優先順位ということで、通学路や危険箇所を最優先に進めています。

藤岡議員のご質問の狭い道路の整備ですけれども、危険箇所と通学路を優先的にやるということに加えて、現在「りんりんタウン構想」という自転車のまち、安全に自転車が乗れる町の計画を策定中でありまして、これは自転車面の整備と道路整備と併せて、快適な道路空間の利便性と安全性を図り計画的な整備、そういったものを目指しているところであります。

「りんりんタウン構想」とは、自転車活用の計画が国でできましたので、それに基づいて進めております。

いずれにしましても、路線数が8,000いくつありまして、生活に密着したところから順番にやっていくという、優先順位の高い所からやっていくということで、狭い道の整備について、緊急性、あるいは、優先度の高いものということでやっておりますので、ご了解いただきたいと思います。

以上です。

○寄名綾乃議長） 11番・藤岡美都さん。

○11番 藤岡美都議員） 市内の道路について、たくさんのお話を学ぶことができました。ありがとうございました。

〔拍手〕

○寄名綾乃議長） 以上で、11番・藤岡美都さんの一般質問を終了します。

次に議席番号12番、青丘学院つくば高等学校の川又朱莉さん、お願いいたします。

[川又朱莉議員 登壇]

○12番 川又朱莉議員 青丘学院つくば高等学校から来ました川又朱莉です。

「子どもの貧困」に対する石岡市の現状とその支援、対策について質問させていただきます。

厚生労働省が2014年にまとめた報告書によると、日本の子どもの相対的貧困率は16.3%、実に日本の子どもの約6人に1人が貧困状態にあることを示しています。2014年のOECDのまとめでも、日本の子どもの貧困率は、先進国34か国中、10番目に高い数字でした。

また、2013年度の全国学力テストの結果を分析した調査研究によると、世帯収入が低い家庭の子どもは、そうでない家庭の子どもよりも、正答率が約20%も低かったという調査結果が報告されました。このように、家庭の経済格差が、子どもの学力格差を生む大きな要因であると思います。

さらに、親の経済的貧困は、子どもから教育を受ける機会を奪うことにつながります。教育機会に恵まれなかったことで低学力、低学歴となってしまった子どもは、大きくなったときに所得の低い職業に就かざるを得なくなり、孫の世代、そしてまた次の世代と、貧困の連鎖が続いていくことになってしまいます。この貧困の連鎖を断ち切るためにも、経済的な理由で教育を十分に受けることができない子どもたちをなくすことが、緊急の課題と思います。

そこで、私は次の5つについてお伺いいたします。1、石岡市でいわゆる子供の貧困の数はどのくらいか。2、石岡市における子供の貧困は、何を基準としているのか。3、石岡市では子供の貧困をどのような方法で把握しているのか。4、石岡市では子供の貧困についてどのように受け止めているのか。5、石岡市では子供の貧困に対してどのような援助、対策をしているのか。

以上について、よろしくお願ひいたします。

○寄名綾乃議長 副市長根本さん。

[根本副市長 登壇]

○根本副市長 青丘学院つくば高等学校の川又朱莉議員の、「子どもの貧困」に対する石岡市の現状とその支援、対策についてお答えをいたします。

はじめに、子どもの貧困については、いずれ社会の担い手となっていく、すべての子供たちが、いわゆる貧困の連鎖によって、その将来が閉ざされるということは決してあってはならないということでありまして、子どもの貧困対策というのは、その地域の未来への投資でもあるということから、石岡市としても、重要な取り組みだと考えております。

それで、「子どもの貧困」に対する石岡市の現状とその支援、対策ということでございますが、お尋ねの1点目の子供の貧困の数、2点目の基準、3点目のその把握の方法でございますけれども、OECD、いわゆる経済協力開発機構で用いている相対的な貧困率のような統一的な基準というものが、都道府県、市町村にございませんで、判断の比較というのはなかなかできないんでありますけれども、2016年の新聞報道によれば、茨城県の子どもの貧困率というのは、全国平均よりは貧困度が低い状況ということでした。

当市といたしましては、17歳以下の生活保護を受けている人数と、それから学用品費や給食費の就学

援助を受けている人数、これを足し上げた数で把握をしております。

2018年4月1日現在では、当市の17歳以下の人口1万531人に対しまして、貧困状態にある子どもは800名程度、割合にしまして約7.6%、約13人に1人の子どもが貧困状態にあるというふうに数字上は出てまいります。

4点目が子供の貧困についてどのように受け止めているかということについてですが、子どもの貧困は、子どものみの問題ではなく、その世帯すべての問題であると考えております。

貧困の連鎖を断ち切るために、子どもの支援とあわせまして、保護者に対しての生活支援や、就労支援などと組み合わせた総合的かつ継続的な支援が大切であると考えております。

最後に、5点目の子供の貧困に対する援助と対策についてでございますが、子どもの貧困対策といたしまして、生活保護や学用品費や給食費などの就学援助のほか、低所得世帯の小学校4年生から中学校3年生を対象といたしました、無料の学習支援事業を実施しております。

また、学校教育による総合的な教育支援として、スクールカウンセラーや心の相談員の派遣などをして、子どもの心に寄り添った支援体制を図っております。

加えまして、ひとり親支援対策として、児童扶養手当の支給であるとか、母子父子世帯の相談窓口の設置、それから、ひとり親世帯の親が資格を取得しようとする場合の給付金制度、小学校へ入学する児童の入学祝金を支給するなどの援助を行っております。

今後とも、本市としては、子どもの貧困対策の推進に関する法律において定められている、子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されることのない社会を実現するとの基本理念に基づきまして、すべての子供たちが夢と希望を持って、成長していける地域社会の実現を推進してまいりたいと考えております。

○寄名綾乃議長）12番・川又朱莉さん。

○12番 川又朱莉議員）石岡市での子どもの貧困に対する援助を知ることができました。これから、その援助を知らない人に、私も知らせていきたいと思ひますし、市の方々にも、色々な制度があるということを広く広報して行ってほしいと思ひます。ありがとうございました。

〔拍手〕

○寄名綾乃議長）以上で、12番・川又朱莉さんの一般質問を終了します。

次に議席番号13番、石岡商業高等学校の飯塚裕貴さん、お願いいたします。

〔飯塚裕貴議員 登壇〕

○13番 飯塚裕貴議員）石岡商業高等学校から来ました飯塚裕貴です。

今回質問させていただく内容は、農産物を荒らす野生鳥獣への対策についてです。

石岡市は自然が豊かな地域です。お米や野菜、果実などの農作物の収穫量も多く、とても魅力的な自治体だと思います。一方、自然が豊かであるがゆえに、農作物を荒らすイノシシなどの野生動物の発生も多いと聞いています。石岡市内では、どの程度の被害が発生しているのでしょうか。具体的に教えてください。

実際の被害額を調べてみたところ、近隣の県である群馬県の野生鳥獣による農作物被害金額は、平成28年度に3億2,466万円を記録したそうです。同じ年の茨城県内の野生鳥獣による農作物被害額は約5億8,000万円であり、群馬県を超えています。これだけの被害額になるということは、各自治体において対策を講じていることと思います。石岡市では、野生鳥獣による被害を増やさないために、どのような対策をとっていますか。教えてください。

○寄名綾乃議長) 副市長根本さん。

[根本副市長 登壇]

○根本副市長) 石岡商業高等学校の飯塚裕貴議員の農産物を荒らす野生鳥獣への対策についてお答えをいたします。

まず、石岡市内での被害状況でございますけれども、平成29年度は、イノシシの被害では、主に水稲、果樹、野菜などとなっております、被害額は約1,100万円、ハクビシンによる被害では、主に果樹でございます、被害額は約790万円となっております。

次に、被害を増やさないための対策ということでございますが、1つとして捕獲駆除と侵入防止、そして今年度から新たに取り組みを始めます、地域ぐるみでの、いわゆる獣害対策。これを、3つを対策の柱にして対応してまいりたいと考えております。

1つめの捕獲駆除でございますけれども、4月から10月までは、市内の猟友会の会員の皆様が中心に、猟銃所持資格やわな設置資格者により構成された32名の鳥獣被害対策実施隊に活動いただきまして、捕獲、駆除を進めてまいります。

特に、6月と9月の60日間は、有害鳥獣対策期間といたしまして、イノシシだけではなくて、ハクビシンやカラスの捕獲、駆除も行っています。

また、11月から3月までは狩猟期間となっております、期間中に捕獲したイノシシに対して、報奨金を支払いまして、被害減少に努めてまいります。

捕獲に関しましては、年間を通じた捕獲体制となっております。

イノシシの捕獲頭数でございますけれども、平成29年度は、年間598頭を捕獲、駆除しておりまして、平成28年度の約1.15倍の数、実績となっております。

2つ目の対策として、侵入防止でございますけれども、直接的な対策といたしまして、田畑を守るための電気柵やフェンスの設置などがございます。市では、これらの設置費用の一部を補助をしております。

電気柵は、電線にイノシシの鼻先が当たると、電気が流れるというしくみで侵入防止を図るというものでございます。

次に、3つめといたしまして、地域ぐるみでの対策でございますが、いのししの生態や対策について、今年の5月27日になりますが、市民のかた向けに獣害対策講演会というものを開催をいたしまして、地域が主体となって行う対策についての認識を深めていただいているところでございます。

わなや防護柵の設置、監視カメラによるイノシシの行動を把握しまして、捕獲の対策を検討するな

ど、地域にあった対策を行い「住処を作らせない・近づかせない・侵入させない」というための活動を地域全体で行うということでございます。

これからは、行政だけでなく、地域とともに行う被害防止の取り組みが必要となってまいります。そのためには、地域をまとめ、核となる人材の育成が必要不可欠となってまいります。地域ぐるみで獣害対策に取り組む気運が高まる中、高校生議員の皆さんがたにも、地域を守る将来の担い手候補として、活躍をしていただければというふうに思います。

○寄名綾乃議長） 13番・飯塚裕貴さん。

○13番 飯塚裕貴議員） 石岡市における野生鳥獣の被害やその対策について学ぶことができました。ありがとうございました。

〔拍手〕

○寄名綾乃議長） 以上で、13番・飯塚裕貴さんの一般質問を終了します。

次に議席番号15番、石岡第一高等学校の千葉あおいさん、お願いいたします。

〔千葉あおい議員 登壇〕

○15番 千葉あおい議員） 石岡第一高等学校から来ました千葉あおいです。

石岡市は、古くからの街並みや柏原の工業団地などがある一方、自然環境に恵まれた地区だと思えます。八郷などが典型だと思えますが、豊かな自然環境の中で、農業も盛んにおこなわれています。例えば、皇室に献上される柿や栗やなし、ブドウ、イチゴなどの果樹が栽培されています。

その一方で、バスの本数も少なく、鉄道の路線が何本も走っているわけでもなく、公共の交通機関が少ないような気がします。石岡市は自然環境の豊かさに比べ、利便性は恵まれていないと思えます。

自然環境の良さと利便性のバランスが悪いイメージがありますが、今後、どのような対策をお考えですか。特に、八郷はとても自然環境が豊かですが、高齢化が進む中、生活するには交通など生活環境が不便ではないかと感じます。今後、生活環境の向上と自然環境の保持をどのようにお考えですか。

○寄名綾乃議長） 市長今泉さん。

〔今泉市長 登壇〕

○今泉市長） 石岡第一高等学校の千葉あおいさんの質問にお答えします。

生活環境の向上、自然環境は豊かだけれども、公共交通などが不便ではないかというご質問かと思えます。

石岡のまちづくりの方針と連携し、利便性が高く、持続可能な公共交通を構築するため、本年度、石岡市公共交通網形成計画を策定いたしました。

その中で、地域住民の移動の手段の確保、まちのにぎわいの創出、人の交流の活性化などの問題を検討し、公共交通ネットワークの利便性及び効率性を向上させるようにして、そこに幾つかの政策を盛り込んでおります。

これはまだ計画段階なので、具体的に表に出てはいないんですけど、そういった中で自然環境の保持に関しては、今、千葉さんが言われた通り、八郷地区あるいは石岡地区においても、農業など自然環

境豊かなわけでありますが、そういったバランスが非常に難しい状況になってきているのは確かだと思います。

魅力ある住みよいまちをつくるには、行政だけではなく、市民と市民、市民と行政がお互いの信頼と理解の基、それぞれの特性や能力をいかしつつ、課題解決や将来像の実現に向けて、一致団結して協力して取り組むことが重要であります。

少子高齢化が進む中、今言われた公共交通の充実性が大変難しい問題でありますけれども、市民と企業、あるいは行政が一体となって、あるいは広域の中で、全体の増員をしながら考えていきたいと思っています。

石岡市公共交通網形成計画の策定を待っていただきたいと思います。

以上です。

○寄名綾乃議長 15番・千葉あおいさん。

○15番 千葉あおい議員 お教えいただいた計画、政策を通じて、石岡市がより良い地域になっていければと思います。ありがとうございました。

〔拍手〕

○寄名綾乃議長 以上で、15番・千葉あおいさんの一般質問を終了します。

次に議席番号16番、青丘学院つくば高等学校の伊藤萌花さん、お願いいたします。

〔伊藤萌花議員 登壇〕

○16番 伊藤萌花議員 青丘学院つくば高等学校から来ました伊藤萌花です。

若者に向けた、石岡市における地域振興の取り組みについて質問させていただきます。

地域振興は、地域活性化への理解醸成調査より、地方の地域づくり活動のリーダーや参加者の間の連携、地域住民の参画の推進を図り、地域の魅力や地域づくり、地域活性化の取り組みに対する住民、学生等の理解を得ることで、新たな担い手による自発的な地域づくり活動へつなげていくことが大事であるとあります。また、地域再生を担う人づくり支援調査でも、地域の活性化は、住民や団体が主体となって自らイニシアティブを発揮し、プランを描き取り組むことが基本であるとの認識のもと、地域自らが考え、実行できる体制を強化するため、集中的に研修会、実証実験等を実施し、地域づくりの核となる担い手の育成を積極的に推進することが大事であるといっています。

それらをふまえて状況をみると、地方の若者が都市へ流出し、都市の人々が地方へ来る機会がないような実感があります。特に若者の都市への流出は、地方の将来を左右する大きな問題であると思います。地方の若者が、自分が生まれ育った場所で生き生きと暮らせること、都市の人々が、地方に魅力を感じて来てもらうようにするのは、地方にとって大事な課題であると思います。

そこで私は、若者が都市へ流出する主な理由を大学進学や就職によるものと考えますが、大学に進学しても将来、地元に戻って来てくれるような、また定着してもらえるような政策をお伺いいたします。それから、逆に都市から地方への移住を希望する若者も少なからずいると思います。そのような若者に対して、石岡市の魅力でもある豊かな自然や文化を伝えるために取り組んでいることがあれば合わせて

お伺いいたします。

○寄名綾乃議長）市長今泉さん。

〔今泉市長 登壇〕

○今泉市長）青丘学院つくば高等学校の伊藤萌花さんのご質問について、お答えいたします。

若者に向けた、石岡市における地域振興の取組についてということで、様々な文献を参考にたいへん勉強されているということが分かりますけれども、若者に向けた、石岡市における地域振興の取組、若者が地元に戻ってくるような、また、定着してもらえような政策でありますけれども、若い世代の人口流出につきましては、大学に進学する年代において大きく市外へ流出している状況となっております。

そして、大学への進学で、いったん流出した若者のその後ですけれども、1990年代には卒業して就職をする年代において、流出した人口が石岡市に戻ってきている状況がみられていました。しかし、皆さんが生まれた2000年代になると、大学を卒業して就職をする年代において、流出した人口が石岡市に戻る割合が少なくなっており、昔と比べて若い世代の人口減少が大きくなっています。これは、就職をする際に、東京圏の会社を選択するなど、地元に戻る若者が少なくなっているということでもあります。

このため、石岡市では、東京圏が近いことを生かし、大学に自宅から通いやすくするため、そして、自宅から東京圏の就職先に通勤しやすくするために、JR常磐線の学生定期券や特急券購入の助成を行っています。また、若い世代が石岡市に住みたいと思って頂けるように、魅力的な働く場所の確保や、生活環境の充実に努めていきたいと考えています。

石岡市の魅力である豊かな自然や文化を伝えるために取り組んでいることですが、石岡市の魅力を市内外に発信するため、今年度、ふるさと石岡映像コンテストや石岡市ふるさと学習サミットを開催いたします。

また、市では、石岡市の魅力を首都圏の若い世代に伝えるため、特に東京でのPR活動に力を入れております。8月には、東京都庁で石岡市のPRを1週間実施し、市の名製品の販売や、石岡のおまつりのPR、そして豊かな自然環境の見どころなどをPRしてまいります。

また、石岡市への移住に関心を持って頂くため、東京・有楽町にあるふるさと回帰支援センターで開催している、茨城県の移住セミナーでの個別相談や、移住体験バスツアーの実施などにも取り組んでいます。

地域の活性化、未来創造には、新たな担い手である、若い世代の力が欠かせませんので、引き続き、若者に向けた地域振興の取り組みを進めていきたいと考えております。

以上です。

○寄名綾乃議長）16番・伊藤萌花さん。

○16番 伊藤萌花議員）現在の現状や対策を良く知ることができました。また、これからも取組を続けて、若者が地方でも住みやすく、様々な場面で活躍して活気あふれる石岡市になれるといいなと思いました。ありがとうございました。

〔拍手〕

○**寄名綾乃議長**) 以上で、16番・伊藤萌花さんの一般質問を終了します。

以上で通告による質問は終了いたしましたので、これをもって一般質問を終結いたします。

○**寄名綾乃議長**) 本日予定をしておりました、議事日程はすべて終了いたしましたので、これをもって、石岡市高校生議会を閉会いたします。

皆さま大変お疲れ様でした。

[拍手]

[寄名綾乃議長 退席]

○**鈴木議会事務局長**) 高校生議員の皆さま、お疲れ様でした。

高校生議長、石岡第二高等学校寄名綾乃さん、ご挨拶をお願いいたします。

[寄名綾乃議長 登壇]

○**寄名綾乃議長**) 本日は、皆様のご協力により、無事に高校生議会の閉会を迎えられますことに、心から感謝申し上げます。

また、今泉市長をはじめ、副市長、教育長には、私たち高校生の質問に対しまして、一つ一つ丁寧にお答えいただき、ありがとうございました。

私たち高校生は、これまで知らなかった石岡市の政治について、たくさん発見があり、とても勉強になりました。今日、私たちが質問の中で提案をしたことが、一つでも取り上げてもらえれば嬉しく思います。

これからも、この大変貴重な体験をいかし、暮らしの様々なことに関心を持ち、大人の皆さんと一緒に考え、行動していきたいと思えます。

ありがとうございました。

[拍手]

○**鈴木議会事務局長**) ありがとうございました。

最後に、櫻井教育長から、本日の高校生議会の講評をいただきたいと思えます。

[櫻井教育長 登壇]

○**櫻井教育長**) ただ今ご紹介をいただきました教育長の櫻井でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

講評ということですが、15名の高校生議員の皆さん、大変お疲れ様でございました。緊張もされたのかなと思えますが、学校の授業ではできない貴重な体験をして、高校生活の一つの大きな思い出となったのではないのかなと思っております。

私がですね、石岡小学校に勤務をしておった時の在校生もこの中にいらっしゃいまして、議員さんとして立派に大役を果たされたということで、私も安心をしているところであります。大変お疲れ様でございました。

私もですね、後ろに議員さん皆さんいらっしゃいますけれども、違った緊張感をもってこの議会に出席をさせていただきました。

15名の皆さんの質問内容を拝見いたしますと、現在の石岡市の行政に関して関心を持たれ、また、真剣に考えていただいていることに感銘を受けました。そのため、執行部も質問に対しましては真摯に受け止め、そして真剣に、かつ丁寧に分かりやすく回答をさせていただきました。高校生ならではの視点からの質問やご提言、特に市民生活に密着をした質問、あるいは安心安全への取組に関する質問、更には石岡の今後の発展、あるいは観光等に関する質問等、様々なご質問やご提言を頂戴いたしました。と同時に、自分の考え、そして意見を含め堂々と分かりやすく説明をされているのかなと感心をいたしました。

ご答弁より石岡市の行政をより身近に感じていただけたなら幸いです。また、答弁をさせていただきました内容につきましては、実現をできるように、今後努力をしまいたいと思っております。

さて、皆様もご承知のように、公職選挙法が改正をされまして、20歳から18歳に引き下げられました。今回の高校生議会は、間もなく選挙権年齢を迎える皆さんが、議会あるいは議員の役割と責務の体験を通して、自分の考えを持って一票を投じることの出来る有権者になってもらうことも目的の一つでございます。是非、今回の経験を活かして、政治、行政、選挙に関心を持ち、石岡市、そして、日本の将来を真剣に考えられる大人になっていただきたいなと思います。

結びといたしますけれども、今回の高校生議会開催にあたりまして、ご協力をいただきました各高等学校の諸先生方、市会議員の皆様方、傍聴席から応援をいただいた多くの皆様方に感謝を申し上げ、講評とさせていただきますと思います。

本日は、大変お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

以上です。

○鈴木議会事務局長）ありがとうございました。

高校生議会閉会宣言。閉会の宣言を池田副議長にお願いいたします。

〔池田副議長 登壇〕

○池田副議長）

以上をもちまして、石岡市高校生議회를終了いたします。高校生の議員の皆さん、長時間にわたる慎重審議、大変お疲れ様でございました。

午後4時40分閉会

